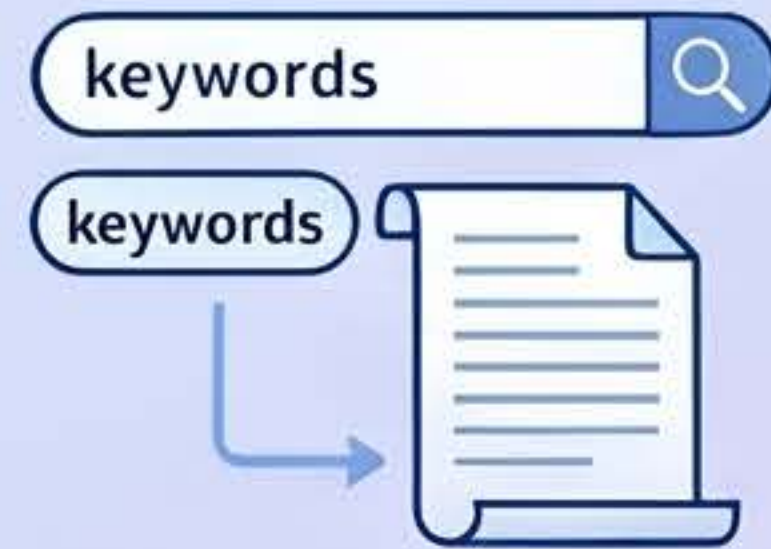


知財実務における生成AIの進化：2025年から2026年への劇的転換

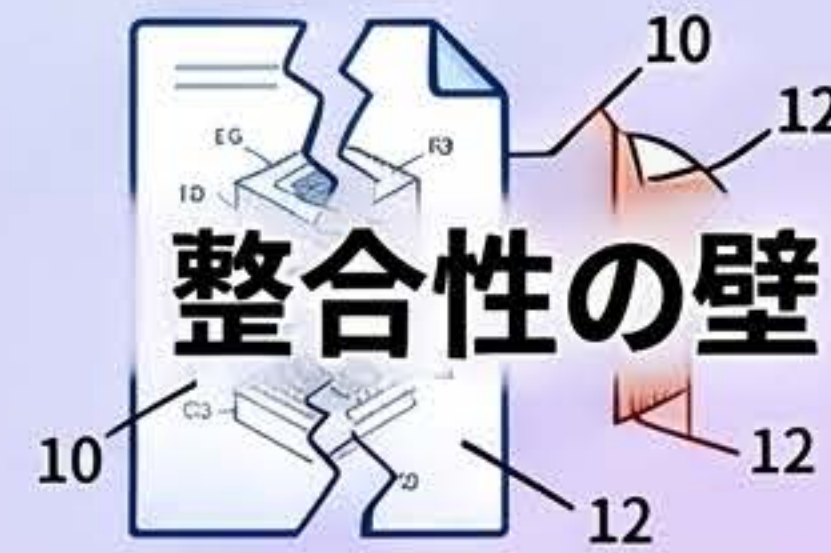
2025年から2026年にかけて、知財実務における生成AIは「テキスト補助ツール」から「図面や構造式を直接扱う基幹インフラ」へと質的変換を遂げました。マルチモーダル技術の成熟により、製図や整合性チェックの自動化が実用段階に入っています。

2025年：テキスト中心の初期アプローチ



テキスト解析と 公報要約への集中

文献のスクリーニングや検索式作成が活用中心であった。



図表処理における 「整合性の壁」

本文と図面の参照符号が一致しない等のハルシネーションが顕著化した。



補助情報としての 図面扱い

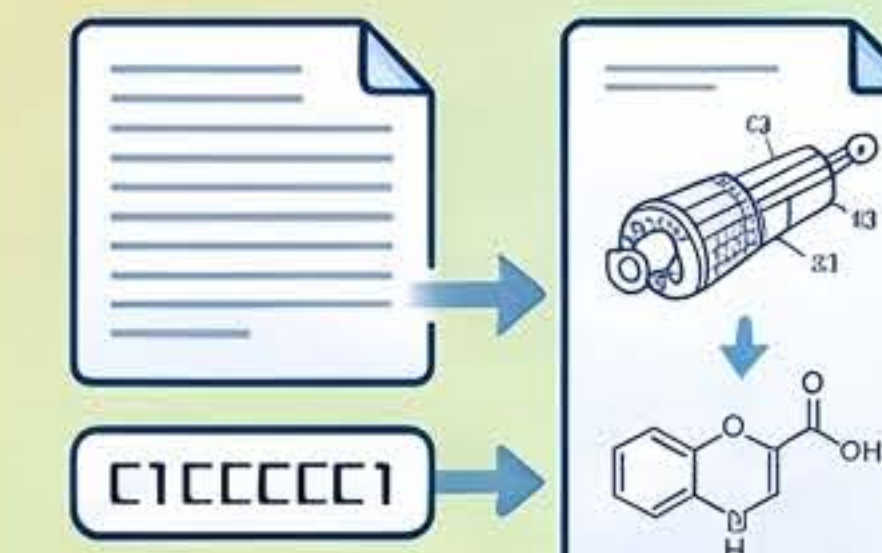
OCRや関係抽出を介した間接的な参照に留まっていた。

2026年：マルチモーダルによる実務革命



図面・構造式からの 直接的な知財推論

引欄図面から技術的差異を抽出し、反論ロジックを自動構築する。



特許図面と化学構造式の 自動生成

明細書と図面から図面作成や、SMILESからの構造式出力が実現。



知財業務の 「前提条件」へ昇格

全業務の67%がAI関連となり、基幹インフラとしての地位を確立。

2025年と2026年の
機能的な到達点の違いを
明確化する。

図面処理

2025



テキストと図面の
併載表示

2026



図面の自動生成と
符号関与

化学構造式

2025



文脈からの
定性的説明

2026



図像検査と
PNG形式連携出力

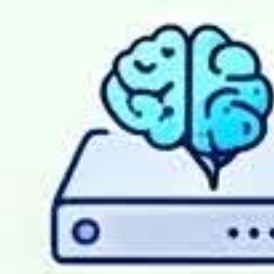
処理環境

2025



クラウド・
テキスト中心

2026



ローカル・
マルチモーダル解析